



Title	一墳丘に複数の埋葬施設をもつ後期古墳について
Author(s)	黒石, 哲夫
Citation	待兼山考古学論集. 2025, 4, p. 587-599
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105073
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

一墳丘に複数の埋葬施設をもつ後期古墳について

黒石 哲夫

はじめに

筆者が長年フィールドワークとしてきた和歌山県の後期古墳を概観すると、一つの墳丘に複数の横穴式石室、竪穴式石室、箱式石棺をもつ古墳が他地域より明らかに多く見られる。特に岩橋千塚古墳群をはじめとして結晶片岩を石室の用材とする紀ノ川下流域の南岸に多く分布している。2基から3基の横穴式石室をもつものや、横穴式石室を埋葬主体としながら、石室内に追葬しないで墳丘上に竪穴式石室や箱式石棺を追加する事例が多い。

この地域の横穴式石室は単葬式のT字形石室、2人葬用の正方形石室、3人葬以上の長方形石室と築造前から横穴式石室の構築プランが決まっていて、「追葬することを前提としない横穴式石室」として築かれた可能性が高い。前方後円墳である寺内18号墳の後円部に築かれたT字形石室が象徴的である。この埋葬方式に起因して古墳築造数の増加につながったものと考えられる。

このような事例について近畿地方から四国地方を中心として複数の横穴式石室や埋葬施設をもつ古墳（時期区分としては九州北部地方の中期古墳や一部東日本の大型古墳も含む）について主要なものを比較対照としてとりあげ、出現背景や被葬者等について考察してみたい。

1. 一墳丘に複数の埋葬施設をもつ後期古墳

（1）埋葬施設の種別・基数と墳丘形態による分類

複数の横穴式石室をもつ古墳をY型、横穴式石室を埋葬主体としてほかに竪穴式石室、箱式石棺、木棺墓、土器棺墓、埴輪棺墓などの埋葬施設をもつ古墳をZ型とする。横穴式石室数を先頭に1・2・3と表記し、墳丘形態が前方後円墳のものを①、前方後方墳のものを②、円墳を③、方墳を④として以下に分類した。

時期区分として横穴式石室の築造状況と分布から、Ⅰ期（初現期・4C末～5C後半）、Ⅱ期（拡散期・5C末～6C前半）、Ⅲ期（盛行期・6C中葉～6C後半）、Ⅳ期（終末期・6C末～7C後半）とする。

表1 分析対象一覧

埋葬施設	時期	①前方後円墳	②前方後方墳	③円墳	④方墳
2Y 横穴2基	I期	千足古墳			
	II期	十善の森古墳 天塚古墳	薄井原古墳		
	III期	前山 B53 号墳 玉城山 3 号墳 こうぜ 1 号墳 二子塚古墳 向山 1 号墳 国分大塚古墳		船戸箱山 3 号墳 奥山田 3 号 墳 寺山 8 号墳 お姫山古墳 大下田 2・3 号墳 三島 1 号墳	
	IV期			栗原森貝 3 号墳 千浦二子塚 C2 号墳	駕田古墳 見野 6 号墳 植 山古墳 夫婦塚古墳 三室 山 2・3 号墳 山田高塚古 墳 宇磨向山古墳 川上神 社古墳 須曾蝦夷穴古墳 竜角寺岩屋古墳
3・4Y 横穴3・4基	I期	老司古墳			
	II期				
	III期	二塚古墳 牧正一古墳 八幡社 46 号墳		前山 B11号墳 大下田 4 号墳 東野お茶屋台 11号墳	
	IV期				舞谷 3・4 号墳
1Z 横穴1基+α	I期	鋤崎古墳			
	II期	大谷山 6・28 号墳 富木車塚 古墳			
	III期			前山 B100・101・102 号墳	
	IV期			寺内 35 号墳	
2Z 横穴2基+α	I期	谷口古墳			
	II期	勝福寺古墳		上ミ山古墳	
	III期	寺内 18 号墳 前山 B67 号墳		前山 B220 号墳	船戸箱山古墳
3Z 横穴3基+α	III期			葉佐池古墳	

2. 類型別古墳の概説 (図1・2)

(1) I期 (初現期 4C末～5C後半 北部九州系・肥後系横穴式石室)

1 谷口古墳 長崎県唐津市・前方後円墳 77 m、堅穴系横口式石室 2 (内部に長持式石棺)、堅穴式石室 1 (内部に船形石棺、30 代後半の男性)、4 C 末。

2 老司古墳 福岡県福岡市・前方後円墳 76 m、堅穴系横口式石室 4、後円部に 3、前方部に 1、石室内には複数の成人男女の人骨が遺存、5 C 初め。

3 鋤崎古墳 福岡県福岡市・前方後円墳 62 m、堅穴系横口式石室 1、石室内に奥壁に石棺、左に埴輪棺、右に箱形木棺の 3 基、前方部などにも埴輪棺 4 と堅穴式石室 1、4 C 末～5 C 初め。

4 千足古墳 岡山県岡山市・前方後円墳 80 m、造山古墳陪塚、横穴式石室 2 (主石室は北部九州系、石障は阿蘇溶結凝灰製で直弧文あり、もう 1 基はやや小型で並行)、5 C 前半。

I期では、九州北部地域で 4 世紀の終わり頃から初現期の横穴式石室といわれる堅穴系横口式石室をもつ古墳が出現するが、複数の石室をもつものが多い。また、横穴式石室以外に複数の堅穴式石室や埴輪棺をもつ古墳も多い。横田下古墳 (佐賀県佐賀市) のように石室内に 2 室並列構造の特殊な石棺をもつものや、鋤崎古墳の石室内に 3 基の棺を備え 8 体が埋葬された例

もある。

千足古墳では、北部九州系と肥後系の特徴をもつ古式横穴式石室が築かれ、阿蘇溶結凝灰岩の石材には直弧文が彫られており、石室用材には香川県産の讃岐石が使用されている。また、古墳の主軸にほぼ並行して2基の横穴式石室が築かれている。5世紀前半の地域間交流と墓制を考える上で重要な古墳である。

（2）Ⅱ期（拡散期 5C末～6C前半 北部九州系・肥後系・畿内系横穴式石室）

5 大谷山6号墳 和歌山県和歌山市・前方後円墳25m、横穴式石室1（畿内系・右片袖式、岩橋型横穴式石室の祖型）、竪穴式石室1、箱式石棺1、紀氏？ 6C初め。

6 大谷山28号墳 和歌山県和歌山市・前方後円墳25m、横穴式石室1（肥後系・両袖式、岩橋型横穴式石室の祖型）、箱式石棺1、紀氏？ 6C初め。

7 勝福寺古墳 兵庫県川西市・前方後円墳41m、横穴式石室2（畿内系・右片袖式、畿内系・小型両袖式）、箱式木棺2、継体天皇孫の火焰王子（火穂王）？ 6C前半。

8 井ノ内稲荷塚古墳 京都府長岡京市・前方後円墳46m、横穴式石室1（畿内系・右片袖式）、箱式木棺1、6C前半。

9 天塚古墳 京都府京都市・前方後円墳71m、横穴式石室2（系譜不明・無袖式、畿内系・右片袖式、後円部で横穴式石室が直行する位置関係）、秦氏？ 6C前半。

10 富木車塚古墳 大阪府高石市・前方後円墳48m、後円部：横穴式石室1（系譜不明・無袖式）、粘土槨1、木棺1、前方部：木棺4、築造順：後円部粘土槨1・木棺1→横穴式石室→前方部木棺4、被葬者は合計11人、くびれ部で須恵器使用の祭祀跡、殿来連一族？ 6C前半。

11 十善の森古墳 福井県越前町・前方後円墳67m、横穴式石室2（北部九州系・両袖式、後円部1、前方部1小型）、膳手臣氏？ 6C初め。

12 薄井原古墳 島根県松江市・前方後方墳50m、横穴式石室2（後方部で反対向きに開口、同大・同形、畿内系・右片袖式、肥後系石室構築技法（天井部四隅隅丸、玄室腰石）、組合式石棺）、6C前半。

13 上ミ山古墳 和歌山県すさみ町・円墳40m、横穴式石室2（肥後系・右片袖式1、石障、同大・同形か詳細不明）、箱式石棺1、6C前半。

Ⅱ期では5世紀末頃から畿内地方に横穴式石室が出現する。その中で、朝鮮半島の百濟系統の石室が祖型となって畿内系横穴式石室が成立し、6世紀の前半にかけて各地域に拡散していく。大多数の古墳では埋葬施設は横穴式石室1基であるが、天塚古墳では、後円部に細長い横穴式石室2基が直行するように築かれている。勝福寺古墳では、主石室の築造・閉塞から1世代ほど後に、羨道部に新たに小型横穴式石室が築かれている。

岩橋千塚古墳群では、小型の前方後円墳に横穴式石室とともに、竪穴式石室や箱式石棺が築

かれる。富木車塚古墳では、墳丘の築造中に後円部に粘土槨と木棺が築かれた後に横穴式石室が構築され、その後に前方部に木棺が4基築かれる。弥生時代の墳丘墓や古墳時代前期の森將軍塚古墳（長野県・埋葬施設15基）のように、墳丘が集団の墓域のような状況を呈している。若狭では、十善の森古墳の後円部に北部九州系の横穴式石室が築かれ、前方部にも小型の横穴式石室が並行して築かれている。日本海ルートでの伝播である。

薄井原古墳は前方後方墳の後方に正反対方向に開口する横穴式石室が2基築かれた非常に珍しい双室墳である。2基の石室は規模・構造とも類似しており京都府向日市の物集女車塚古墳の横穴式石室と平面形態や構造が類似するが、石室下部に大型の石材を積み、天井部との取り付き部の四隅を隅丸状にする技法には北部九州と肥後系統の横穴式石室の構築技術の影響がみられる。6世紀前半の島根県内で最古級の畿内系横穴式石室である。当地を統括した大和王権とつながりの強かった首長墓だと推定される。

上ミ山古墳は和歌山県南部のすさみ町の海浜部の丘陵上に6世紀前半に築かれた直径40mの大型円墳である。双室墳で並行して築かれた肥後系統の石室が2基あり（1基は詳細不明）、現存する石室では石障によって玄室平面が3分割されている。周辺では広い範囲で他に古墳や集落跡は発見されておらず、古墳を築いた集団が比較的短時間に途絶した可能性が高い。

このように他地域の特徴（構築技術）を有する横穴式石室をもつ古墳が飛び地的に出現する場合は、同形の石室を2基構築するケースが多い。この事例として谷口古墳、千足古墳、十善の森古墳、薄井原古墳、上ミ山古墳があげられる。

（3）Ⅲ期（盛行期・6C中頃～6C後半 岩橋型・北部九州系・肥後系・畿内系横穴式石室）

14 前山B53号墳（將軍塚古墳） 和歌山県和歌山市・前方後円墳42.5m、横穴式石室2（岩橋型・両袖式、後円部1、前方部1やや小型）、紀氏？ 6C後半。

15 前山B67号墳（知事塚） 和歌山県和歌山市・前方後円墳34.5m、横穴式石室2（岩橋型・両袖式、後円部1、前方部1小型）、竪穴式石室1、紀氏？ 6C後半。

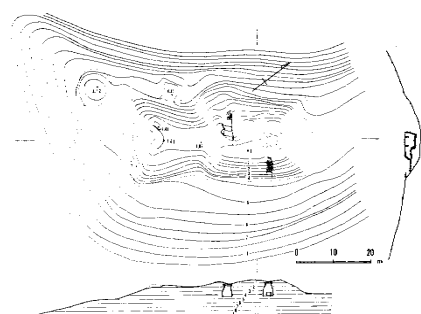
16 寺内18号墳 和歌山県和歌山市・前方後円墳28.6m、横穴式石室2（岩橋型・両袖式、後円部1、T字形、前方部1）、箱式石棺1、紀氏？ 6C中頃。

17 二子塚古墳 大阪府池田市・前方後円墳45m、横穴式石室2（畿内系・両袖式、後円部1・前方部1）、6C後半。

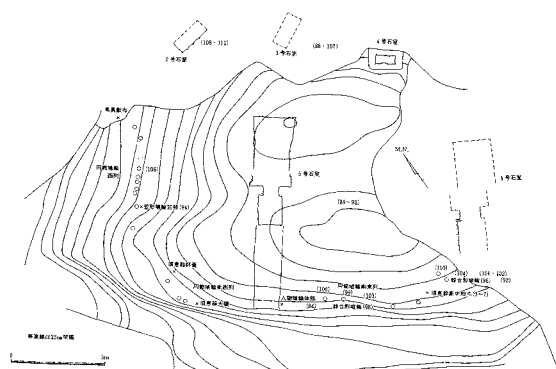
18 牧正一古墳 京都府福知山市・前方後円墳35m、横穴式石室3（畿内系・後円部1両袖式・くびれ部1無袖式・前方部1片袖式）、6C後半。

19 石山国分大塚古墳 滋賀県大津市・前方後円墳45m、横穴式石室2（畿内系・両袖式、後円部1・前方部1）、和邇氏？ 6C後半。

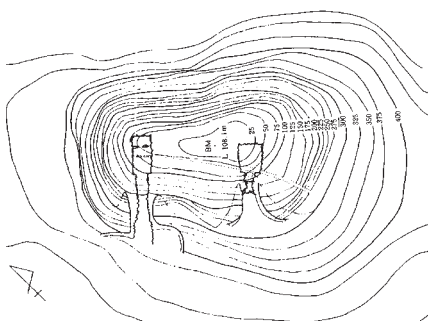
20 八幡社46号墳 滋賀県東近江市・前方後円墳24m、横穴式石室3（畿内系・両袖式1、



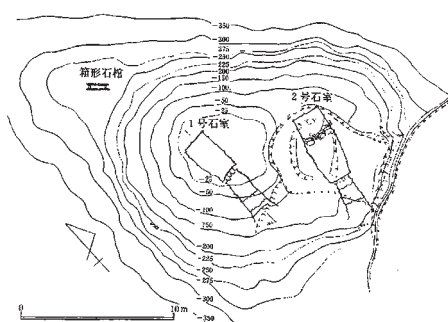
12 薄井原古墳墳丘図



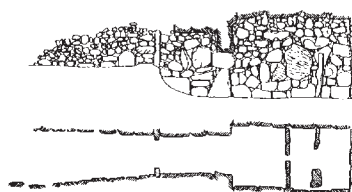
40 船戸箱山古墳墳丘図



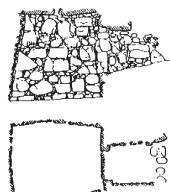
35 大下田3号墳墳丘図



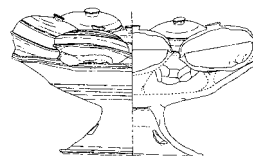
34 大下田2号墳墳丘図



大下田3号墳B号石室図



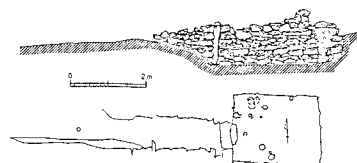
大下田3号墳A号石室図



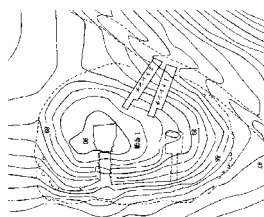
船戸箱山古墳出土須恵器



船戸箱山5号墳石室図



船戸箱山6号墳石室図



三島1号墳墳丘図



三島山2・3号墳墳丘図

図1 対象古墳の墳丘測量図と石室実測図

片袖式 1、無袖式 1、後円部 1 → くびれ部 1・前方部 1 L 字形、追加増築)、6 C 後半～末。

21 和泉向代 1 号墳 大阪府和泉市・帆立貝形前方後円墳 35 m、横穴式石室 2 (畿内系・両袖式、後円部 1 内部に赤・白・緑の彩色陶棺・前方部 1)、6 C 後半

22 こうぜ 1 号墳 奈良県桜井市・前方後円墳 50 m、横穴式石室 2 (畿内系・両袖式、後円部 1・前方部 1)、6 C 後半。

23 玉城山 3 号墳 奈良県桜井市・前方後円墳 47.5 m、横穴式石室 2 (畿内系・両袖式、後円部 1 内部に刳抜き式家形石棺 1 と組合せ式家形石棺 1・前方部 1)、三輪君氏? 6 C 中頃。

24 二塚古墳 奈良県葛城市・前方後円墳 60 m、横穴式石室 2 (畿内系、後円部 1 両袖式、内部に石棺 1、前方部 1 片袖式、内部に石棺 1)、竖穴系横口式石室 1 (造出部内部に木棺 1)、6 C 中頃。

25 前山 B11 号墳 和歌山県和歌山市・円墳 16 m、横穴式石室 3 (岩橋型・両袖式、同大・同形、並行する横穴式石室 2 基に直交方向に横穴式石室 1 基を追加増築)、紀氏? 6 C 後半。

26 前山 B220 号墳 和歌山県和歌山市・円墳 17 m、横穴式石室 2 (岩橋型・両袖式、同大・同形)、竖穴式石室 1、紀氏? 6 C 後半。

27 前山 B100 号墳 和歌山県和歌山市・円墳 12 m、横穴式石室 1 (岩橋型・両袖式)、竖穴式石 1、紀氏? 6 C 後半、前山 B100 号・101 号・102 号・220 号墳は隣接し、竖穴式石室を追加する。

28 前山 B101 号墳 和歌山県和歌山市・円墳 12 m、横穴式石室 1 (岩橋型・両袖式)、竖穴式石室 1、紀氏? 6 C 後半。

29 前山 B102 号墳 和歌山県和歌山市・橢円墳 16 m × 12 m、横穴式石室 1 (岩橋型・両袖式)、竖穴式石室 1、紀氏? 6 C 後半。

30 奥山田 3 号墳 和歌山県和歌山市・橢円墳、横穴式石室 2 (岩橋型・両袖式、T 字形 1)、6 C 後半。

31 寺山 8 号墳 和歌山県和歌山市・橢円墳 14 m × 16 m、横穴式石室 2 (穹窿式・両袖式 1、穹窿式・L 字形 1、追加増築)、東漢氏渡来系? 535 年に設置された紀国経瑞屯倉の管理集団? 6 C 後半。

32 船戸山 3 号墳 和歌山県岩出市・円墳 20 m、横穴式石室 2 (岩橋系・両袖式、追加増築)、竖穴式石室 1 (20 歳前後の女性 1)、6 C 後半。

33 お姫山古墳 愛媛県四国中央市・円墳 23 m、横穴式石室 2 (両袖式 2、直交)、6 C 後半。

34 大下田 2 号墳 愛媛県砥部町・橢円墳 15 m × 20 m、横穴式石室 2 (両袖式 2、追加増築)、箱式石棺 1、6 C 中頃。

35 大下田 3 号墳 愛媛県砥部町・橢円墳 (前方後円墳?) 34 m × 26 m、横穴式石室 2 (北部九州系石障 1、両袖式 2、追加増築)、6 C 後半。

36 大下田 4 号墳 愛媛県砥部町・円墳 25 m、横穴式石室 3 (両袖式 2、羨道なし 1、追加増築)、

6 C後半。

37 東野お茶屋台 11 号墳 愛媛県松山市・円墳 20 m、横穴式石室 3（両袖式 3、追加増築）、6 C後半。

38 葉佐池古墳 愛媛県松山市・橢円墳 23 m×41 m、横穴式石室 3（両袖式 3、内 2 基に組合せ式木棺、追加増築）、竪穴式石室 2、6 C後半。

39 三島 1 号墳 徳島県美馬市・橢円墳 15 m、横穴式石室 2（両袖式 2、段ノ塚穴型・不明）、6 C後半。

40 船戸箱山古墳 和歌山県岩出市・方墳 24 m×17 m、横穴式石室 2（岩橋系・両袖式）、竪穴式石室 3（幼児 1）、6 C後半。

Ⅲ期は 6 世紀中葉～後半で、首長墳では前方後円墳の後円部に横穴式石室が 1 基築かれているものが多いが、後円部と前方部に各 1 基ずつ配したものや同一方向に 3 基並列するものもみられる。石室の開口方向は同じものが多いが、前方後円墳では前山 B67 号墳のように反対方向のものや円墳ではお姫山古墳のように石室の主軸方向が直交するものもみられる。

船戸箱山古墳は長方墳で同形・同大の横穴式石室が 2 基並列する双室墳といわれるもので、円墳（橢円墳が多い）の双室墳（石室の中軸方向がずれるものも含む）も和歌山県、愛媛県、徳島県でこの時期から多くみられる。横穴式石室の周囲に竪穴式石室、箱式石棺、木棺を築く事例も多い。発掘調査で新たな埋葬施設が発見される事例が多く、墳丘内に未発見で存在している比率はかなり高いものと推定される。

（4）Ⅳ期（終末期畿内系横穴式石室・6 C末～7 C後半 岩橋型・畿内系横穴式石室）

41 寺内 35 号墳 和歌山県和歌山市・円墳 12 m、横穴式石室 1（岩橋型・両袖式）、箱式石棺 1（小型）、紀氏？ 7 C初。

42 栗原森貝 3 号墳 奈良県桜井市・円墳 10 m、横穴式石室 2（畿内系・無袖式）、7 C代。

43 千浦二子塚 C2 号墳 福井県三郷町・橢円 16 m×13 m、横穴式石室 2（畿内系・無袖式）、7 C代。

44 駕田古墳 大阪府河南町・方墳 16 m×10 m、横穴式石室 2（横口式石槨状）、6 C末。

45 見野 6 号墳 兵庫県姫路市・方墳か不明、横穴式石室 2（畿内系・無袖式、内部に小石棺 1・2 基）、6 C末。

46 植山古墳 奈良県橿原市・方墳 40 m×27 m、横穴式石室 2（畿内系・両袖式、各内部に阿蘇溶結凝灰製剝抜き式家型石棺）、推古天皇・竹田皇子の大野丘合葬墓？ 6 C末～7 C初め。

47 夫婦塚古墳 奈良県葛城市・方墳 14 m×12 m、横穴式石室 2（畿内系・無袖式、西石室は漆喰塗り）、7 C代。

48 三室山 2 号墳 奈良県三郷町・方墳約 17.5 m×21.5 m、横穴式石室 2（畿内系・無袖式）、

7 C代、3号墳と並設・周濠共有。

49 三室山3号墳 奈良県三郷町・方墳約17.5 m×21.5 m、横穴式石室2（畿内系・無袖式）、7 C代。

50 舞谷3号墳 奈良県桜井市・方墳約14.5 m×10.0 m、横穴式石室3（漆喰塗り、榛原石の磚積）、百済系渡来人？ 7 C中頃。

51 舞谷4号墳 奈良県桜井市・方墳約14.5 m×10.0 m、横穴式石室3（漆喰塗り、榛原石の磚積）、百済系渡来人？ 7 C中頃。

52 山田高塚古墳 大阪府太子町・方墳59 m×55 m、横穴式石室2、どちらかの内部に石棺2、推古天皇・竹田皇子の磯長谷改葬墓？ 7 C前半？。

53 宇磨向山古墳 愛媛県四国中央市・方墳70 m×50 m、横穴式石室2（畿内系・両袖式、結晶片岩）、7 C前半。

54 川上神社古墳 愛媛県東温市・長方形墳、40 m×20 m、横穴式石室2（畿内系・両袖式）、7 C前半。

55 須曾蝦夷穴古墳 石川県七尾市・方墳18.7 m×25.0 m、横穴式石室2（平面T字形と逆L字形、高句麗系の天井部が隅三角持送り技法）、能登国造関係の有力氏族？ 7 C中頃。

56 龍角寺岩屋古墳 千葉県栄町・方墳78 m、横穴式石室2（無袖式・切石）、印波国造関係大生部氏？ 7 C中頃。

IV期は6世紀末から7世紀後半にかけて大和王権の宮都が飛鳥地方周辺に置かれた時代で、首長墓が前方後円墳から方墳や円墳、さらには八角墳へと変化し、薄葬令が施行される。横穴式石室を長方墳に2基並列配置する大型方墳が6世紀末頃から築かれている。奈良県飛鳥地方の植山古墳をはじめとして大阪府太子町の山田高塚古墳へと続き（両古墳とも被葬者は628年に没した推古天皇と竹田皇子で、初葬墓と改葬墓とされる）、愛媛県にも宇磨向山古墳と川上神社古墳の2基がみられ、千葉県でも龍角寺岩屋古墳が築かれている。これらの終末期に2基横穴式石室を並置する大型方墳がどのような関連性をもって広範囲に築かれたのか今後の検討課題である。

大型方墳と対照的に中型の一辺15～20 mの方墳に横穴式石室を2基ないし3基並列してユニット状に築く古墳が7世紀前半頃から出現する。2基の横穴式石室を並列した方墳を背後の丘陵尾根をカットした共有する周濠で囲んで2基並べた双墳・双室墓が奈良県三郷町の三室山2・3号墳である。大和から河内へ通じる龍田道の要衝地の高所に築かれている。奈良県桜井市の舞谷古墳群では、丘陵の尾根部に小型方墳を5基並べて配置し、その3・4号墳では、地元の扁平な榛原石をレンガ状に積み上げた石室3基が並列に築かれている。築造集団として朝鮮半島の百済から帰化した官人の墓ではないかと推定されている。

石川県七尾市の須曾蝦夷穴古墳は1辺約20 mの方墳で玄室の平面形態がT字形と逆L字形

の異なる横穴式石室が並んで造られており、側壁と天井部の取付け部分が三角持ち送り技法という高句麗でみられる技法で築かれている。能登国造関係の有力氏族の墓だと推定されている。

飛鳥時代以降の方墳の双室墓は、朝鮮半島の墓制からの影響で成立したともいわれているが、6世紀中頃からその祖型となりうる古墳が和歌山県や愛媛県で成立しており、その影響下に植山古墳が築かれた可能性も考えられる。

3. 考 察

（1）埋葬施設の構築時期からみた分類

①同時構築型（墳丘造成と連動して複数埋葬施設を同時構築）

谷口古墳、千足古墳、薄井原古墳、前山 B53 号墳、玉城山 3 号墳、三室山 2・3 号墳。

②追加構築 A 型（主埋葬施設（横穴式石室）の完成直後に新たに埋葬施設を増築）

老司古墳、鋤崎古墳、十善の森古墳、富木車塚古墳、大谷山 6 号墳、前山 B220 号墳、前山 B100 号・101 号・102 号墳。

③追加構築 B 型（古墳が完成して一定期間の後に埋葬施設を増築）

勝福寺古墳、大谷山 28 号墳、二塚古墳、八幡社 46 号墳、牧正一古墳、植山古墳。

【個別事例】

- ・前方後円墳で前方部に横穴式石室を追加増築→十善の森古墳、勝福寺古墳、寺内 18 号墳。
- ・円墳で横穴式石室を 1 基追加増築→寺山 8 号墳、船戸山 3 号墳、お姫山古墳、三島 1 号墳。
- ・方墳で横穴式石室を 1 基追加増築→植山 1 号墳。
- ・円墳で並行配置の横穴式石室 2 基に横穴式石室 1 基を直交に追加増築→前山 B11 号墳（推定）。
- ・円墳で横穴式石室 1 基を廃棄後に横穴式石室 2 基追加増築→葉佐池古墳、大下田 4 号墳、東野お茶屋台 11 号墳（愛媛県の松山平野に多い。須恵器生産集団の墓制とされる）。
- ・前方後円墳で横穴式石室＋他種の埋葬施設の追加増築→富木車塚古墳、大谷山 28 号墳。
- ・円墳で横穴式石室＋他種の埋葬施設の追加増築→前山 B100 号・101 号・102 号・220 号墳、（縦穴式石室追加）、和歌山県北部に多い。

（2）埋葬施設の位置関係からみた分類

①石室二列並行配置（同方向に開口）

〔前方後円墳〕谷口古墳、千足古墳、寺内 18 号墳、前山 B53 号墳、玉城山 3 号墳、（前山 B67 号墳は逆開口）。

〔前方後方墳〕薄井原古墳は逆開口

〔円墳〕上ミ山古墳、奥山田 3 号墳、船戸山 3 号墳、前山 B220 号墳。

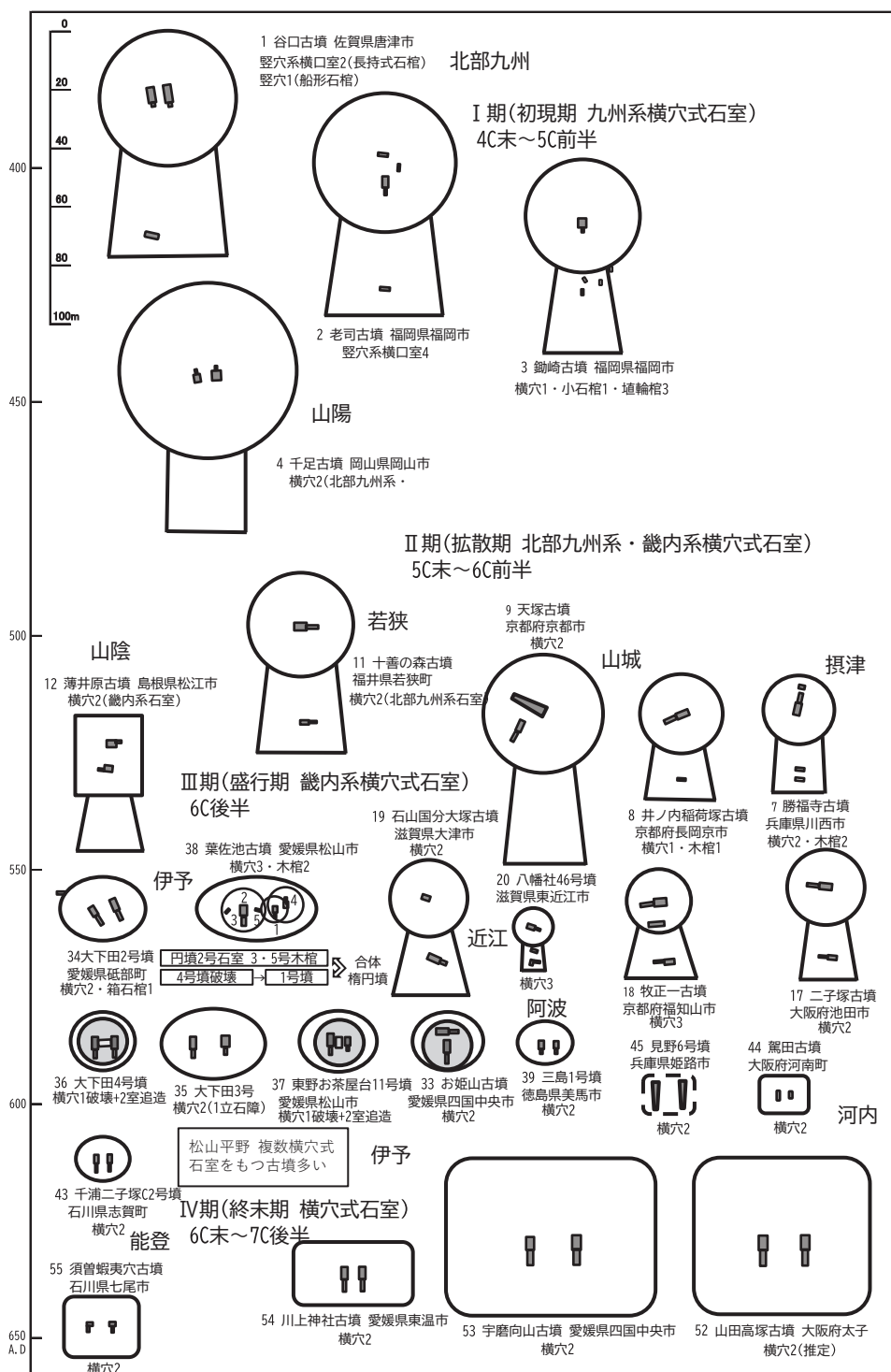


図2 一墳丘多埋葬施設をもつ古墳1 (西日本・横穴式石室)

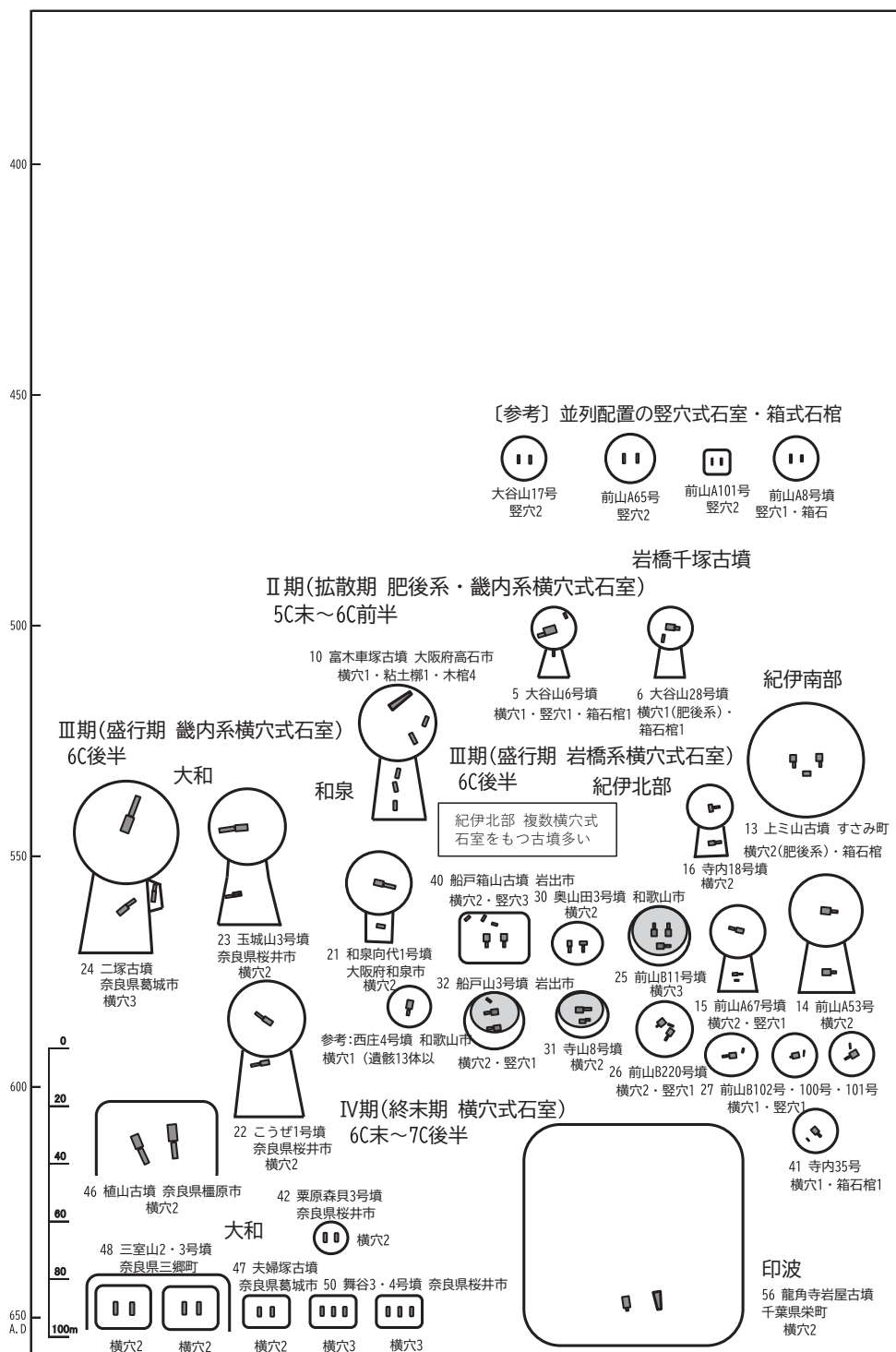


図3 一墳丘多埋葬施設をもつ古墳2 (西日本・横穴式石室)

〔方墳〕 船戸箱山古墳、植山古墳、山田高塚古墳、宇磨向山古墳、須曾蝦夷穴古墳。

②石室三列並行配置（同方向に開口）

牧正一古墳、八幡社 46 号墳、舞谷 3 号墳、舞谷 4 号墳、葉佐池古墳（1 基は逆開口）。

③石室直行配置

老司古墳、天塚古墳、お姫山古墳、前山 B11 号墳（2 基並列＋1 基直交）。

（3）考 察

①Ⅰ期の古墳では複数埋葬施設のものの、主埋葬施設内に複数の棺体をもつもの、その両者のものがあり三者三様である。墳丘の中軸線を設計基準として、前方部に開口するものが多い。前方部からの祭儀の導線が考えられる。但し、千足古墳は反対側の後円部からの導線である。

②Ⅱ期の古墳で他地域の系譜の古式横穴式石室を 2 基もつ古墳は単独墳である事例が多い。十善の森古墳、上ミ山古墳、薄井原古墳などである。古墳を築いた集団の出自（故地）と交流範囲（墳丘・石室構築技術の保持と集団移転先）を示すものと考えられる。なお石室が 2 基築かれている要因については有力な首長クラスの人物が 2 名以上いた、あるいは血縁集団が複数存在していた、古墳の墳丘を築造する労働力の省略化などが考えられる。

③松山平野周辺では、複数の横穴式石室をもつ古墳が 20 例以上あり、地域的特徴を示す。周辺では須恵器の窯跡と工房が確認され、その工人集団が古墳築造に関与したと推定されている。

④松山平野周辺の古墳と岩橋千塚古墳群とその周辺の古墳では、2 基の横穴式石室を墳丘に並列する例や 3 基の横穴式石室を築く例、竪穴式石室や箱式石棺を横穴式石室の周辺に築く事例など類似点が多い。横穴式石室の玄室を羨道から一段低くする構造や、石室を半地下式の掘方に埋め込んで構築する技法なども共通する。特に愛媛県砥部町の大下田古墳群と和歌山県岩出市の船戸箱山古墳と船戸山古墳群では、丘陵部から平野部を望む古墳群の立地状況や中央構造線の結晶片岩と和泉砂岩を産出する地質構造及び墳丘と石室配置の構築方法、装飾須恵器（七連坏付装飾器台等）が出土するなどの共通性が指摘できる。瀬戸内海を介在して東西の交通の要衝地である両地の集団間で交流があった可能性がある。須恵器や玉類などの出土遺物の科学的な分析による検討がのぞまれる。

⑤骨等による被葬者の確認例として船戸箱山古墳の長さ 0.85 m の 4 号小竪穴式石室の骨は幼児で、船戸山 3 号墳の長さ 1.9 m の竪穴式石室の骨は 20 歳前後の女性とされている。葉佐池古墳では、3 号小竪穴式石室から乳幼児の骨が確認されている。これらの事例から和歌山県などでは小型の竪穴式石室や箱式石棺の被葬者は再葬による成人ではなく乳幼児であると考えられる。

引用・参考文献

- 阿波学会考古班 1999「穴吹町における後期古墳の研究—三島古墳群を中心に—」『阿波学会研究紀要』第45号
- 愛媛県史編さん委員会 1986『愛媛県史』資料編 考古
- 愛媛県文化財保護協会 1967『愛媛の文化』第六号
- 大阪大学大学院文学研究科 2004『西日本における前方後円墳消滅過程の比較研究』平成13～15年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書
- 大阪大学文学研究科 2007『勝福寺古墳の研究』考古学研究報告第4冊
- 関西大学考古学研究室・和歌山市教育委員会 1967『岩橋千塚』和歌山市教育委員会
- 黒石哲夫 2005「紀伊における後期古墳時代の集団関係—岩橋系横穴式石室の展開を中心として—」『待兼山考古学論集—都出比呂志先生退任記念—』大阪大学考古学研究室
- 島根考古学会 1962『薄井原古墳調査報告』
- 村社仁史 1986「三室山二・三号墳測量調査（双墓の一例）」『花園史学』第7号 花園大学史学会
- 松山市史編集委員会 1992『松山市史』第一巻 自然 原始 古代 中世
- 松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター 2010『葉佐池古墳—3・4・5次調査—』
- 横穴式石室研究会編 2007『研究集会 近畿の横穴式石室』
- 和歌山県史編纂委員会 1983『和歌山県史』考古資料
- 和歌山県教育委員会・財団法人和歌山県文化財センター 2005『緊急雇用対策特別基金事業に係る発掘調査資料整理概報—和歌山県内6遺跡の概要報告書—』4